

福岡城(城山)跡(ふじみ野市)

築城年代: 戦国時代、築城者: 富永守定

この辺りが福岡城跡のエリアらしい/左手に下福岡城山公園の白いフェンスが見える



ここが下福岡城山公園で城山館跡(福岡城跡)の一角らしい/幾つもの説明板が立っている



城山館跡(福岡城跡)は戦国時代の領主であった富永善左衛門の館跡ということらしい



城山遺跡



城山遺跡の配置と伝承地名



城山遺跡周辺調査地図

下堀川城山公園を含む「堀は城山」と呼ばれ、江戸時代後期成立の「新編武蔵風土記稿」では、後北条氏家臣富永善左衛門の居館であろうと記載されています。また「城山と富永善左衛門」井田実著(市史調査報告書第七集)によると、現地には伝承地名として、「戸開き(大手門)」「たかまき(高馬場)」「いぬ(乾の方位)」「木戸」「湯殿(堀)」、地名「堀敷」などが確認されています。また、寛政六年(1794)の絵図面では、新河岸川が下堀川地域を北東・南と回り込むように流れており、富永善左衛門の館を流路が取り囲むように存在していたことがわかります。

平成十七年度には公園造成に先立ち発掘調査を行っていますが、その際に堀土市(堀が北側から東側へ)字状に屈曲している状況を確認しました。出土遺物としては、中世の滑石製圓筒破片を確認しています。

①が城山館跡(福岡城跡)となっている





1 城山館跡 / 現在地

2 天神社

3 戸開き

4 たかまま

5 湯殿(家号)

6 屋敷

7 いぬ木戸

8 湯殿(地名)

この下福岡城山公園の敷地の中に「堀跡」の遺構が検出されており、その位置が表示されている



城山遺跡確認調査全測図

この杭がそれで、矢印が堀跡の方向を示している



全部で4ヶ所設置されている





これは少し退いて公園並びに福岡城跡を東側から見たところ



これは少し北方向へ歩いたところから南西方向を見たところ/左手が公園のフェンス/この辺り一帯が福岡城跡のようだ



少し左手を見たところ



更に左手(南方向)を見たところ



そこから振り返って北方向を見る/正面前方に福岡城跡の北端に鎮座する天神社があるという



その方向をアップで見る/中央右手の白い車の左の建物が天神社の社殿



さて、ここがその天神社/福岡城の守護神であったという





天満宮(天神社)



江戸時代の城山周辺のようす



長宮水川神社神楽殿

天神社の創建は不詳ですが、伝承によれば、戦国時代に後北条氏の家臣で福岡村を領地とした富永善左衛門が館の鬼門の方角を守護するために勧請したとされています。神社の場所については、元は現在よりも二百メートル程北東にあり、背後に雑木林をひかえ、神楽殿や境内社のなどの建物を備えるなど大規模なものだったことが伝わっています。

明治四十二年(1909)の神社整理により長宮水川神社に合祀合併され、その後、下福岡の住民により旧地に近い場所に再び社殿が造られたようです。その際、「天満宮」の名称が付けられたものと思われる。なお、「説では長宮水川神社の神楽殿は天満宮からの移築とされています。現在、天満宮には社殿と鳥居、社務所があり、社には天神様と天王様が祀られています。神事祭礼は、元旦祭、春祈禱三月二十五日、天王様のまつり七月十四日(それに近い日曜日)があります。



戸開き
→



江戸時代の城山周辺の様子

社殿裏手に石造物がある/説明板も立っている



猿田彦大神

この石造物は、かつて新河岸川旧流路の傍らで石神塚と呼ばれた場所にあったもので、笠付型で、明和五年（1768）十二月星野安房守の年号が刻まれています。

猿田彦は、天孫降臨の折に道案内を務めたことから、道祖神と同一視されていますが、これも、庚申塔と同じく村の辻や境界に置かれることが多いので、両者が次第に結びついていった側面もあると考えられています。

三猿塔

庚申信仰こうしんしんじょうにおける記念や供養塔として建てられたのが庚申塔です。なかでも、庚申の申さる（猿）との関連で、庚申信仰には三匹の猿が登場します。三戸さんしによる天帝てんていへの報告を阻止する意味で、「見ざる・聞かざる・言わざる」で知られる三猿が庚申信仰に取り入れられました。この三猿が庚申塔に刻まれているため、庚申塔は三猿塔とも呼ばれています。

境内地の三猿塔は板碑型で、延宝四年（1676）十月の年号が刻まれています。

力石

力石は江戸時代から若者組に入る資格があるかを試験する際に担がさせた石で、かつて下福岡にも、若者組わかいしやうがあり、十七歳の秋祭りの時、この組に入れてもらう習慣がありました。境内の力石は江戸後期から明治初期に下福岡の船頭原田七蔵・吉野源二良・原田清吉らにより奉納されたものです。それぞれの重さ四拾貫余150kg、参拾六貫（135kg）と奉納者が刻まれています。

力石
↓

力石
↓

猿田彦大神
↓

三猿塔
↓

力石
↓



猿田彦大神



三猿塔



天神社から先ほどの公園方向(南方向)を見たところ



さて、これは公園の西側の福岡城域の西端で北方向を見たところ(右手が福岡城域)/この右手が「戸開き」という場所になるようだ



この辺りが大手門のあったとされる「戸開き」というところ/西側から東方向に見る/手前の道路には「西門道」という地名が残る



さて、ここは公園の東側で、堀跡の雰囲気が残っている/東方向に見たところ



反対に東側から西方向に見たところ



上記の場所から少し北に進むと「湯殿の渡しと旧新河岸川」の説明板が立っている



湯殿の渡しと旧新河岸川

湯殿の渡しは、改修以前の旧流路で行われていました。河川改修で新たに開削されたもので、湯殿の渡しは、改修以前の旧流路で行われていました。

福岡橋から志木方面に直線的に延びる現在の新河岸川は、大正十年(1921)に開始した河川改修で新たに開削されたもので、湯殿の渡しは、改修以前の旧流路で行われていました。

渡り船はトッコシフネと呼ばれていました。なお、湯殿の名称は、渡し守であった原田家の屋号が「エドノ」であるため、これに由来すると考えられます。

舟運の盛んな頃、下福岡にはハヤフネの渡し、下手の渡しがありました。公的なものではなく、周辺の人たちが日常の往來に利用していたものです。下手の渡しは、主に東大久保(富士見市)の農家が新河岸川を越えて畑耕作にいくために利用しており、この渡しは廃止後に少し下流の現在地に湯殿の渡しができたようです。



新河岸川の渡し場と橋の所在地



渡し船として使われたとされるセッショフネ



この前方が旧新河岸川の流路



この辺りに渡し場があったのだろうか



福岡城域の西側にこんな石造物もあった/湯殿山と記された石造の神額か



さて、ここは上福岡歴史民俗資料館(ふじみ野市)



福岡城跡に関する展示があった



中世末期の福岡郷

中世末期の川越地方は、後北条氏の支配するところとなり、その配下の富永善左衛門が「福岡郷」を領有し、下福岡の城山と呼ばれるところには、その館跡があります。

中福岡の長宮遺跡では、この時代の集落の一部が調査され、住居の柱穴・井戸・溝などが発掘されました。また、井戸や溝の中から有力な農民層が用いたと思われる青磁・天目茶碗・茶臼・古銭や、播鉢・内耳鍋・砥石・穀磨臼・瓦質鉢などの生活用具が発見されています。

ふじみ野市に所在していた板碑群も展示されていた



参考ホームページ

<http://iyokakuzukan.la.coocan.jp/002saitama/313fukuoka/fukuoka.html>

<http://ckk12850.exblog.jp/5332760>

http://blogs.yahoo.co.jp/lunatic_rosier/47677465.html

<http://atenzasports23z.blog.so-net.ne.jp/2014-02-27>

http://blog.livedoor.jp/gokenin_gi001/archives/212504.html

<http://www42.tok2.com/home/hakubutukan/musashi/fukuoka.html>

